

人類は月でどう生きるか

太田 舞

もし、あなたが明日から月で暮らすことになら、あなたは何をしますか。重力は地球の六分の一、空気はなく、外には青く輝く地球が浮かんでいます。そんな月での生活を考えるみたいです。

まず、月の「重力」に視点を置いて考えるみます。月では地球の重力の六分の一しか重力がありません。重力がない訳ではないので

歩くことは可能なのですが、低重力の月では日常の動作で筋肉にかかる負担が減ることから、筋力、骨密度の低下になります。そこで、私はまず月で暮らす前に地球で月と似た環境での訓練、骨密度の低下が進みやすい下半身の月での筋トレが必要だと考えました。ここでは月での筋トレをおこなう場所について考えます。月に住むと考えた時に、宇宙飛行士の「い」いで筋トレするほどの量でなくとも歩く、立つなどの日常の動作をするたく

めの身体機能、筋力、骨の維持が必要です。
低重力の月では自重トレニングは効かない
と思^うたので、酸素、気圧が地上に近く、全
身に負荷をかけれるトレーニングを提
案します。

次に、月には「空気がない」という点に視
点を置いて考えてみます。空気がない月では
宇宙服を着ることは必要不可欠です。しかし、
宇宙服の中の空気は純酸素なのでそれに体を
慣らし、体内から窒素を追いつけなければな

らないのですか、これに時間がかかることか
デメリ^ツトです。そこで月に建てる建物はで
きるだけ地球上の酸素濃度、気圧に近づけれ
ば、外に出る時のみ宇宙服を着ることになる
ので、デメリ^ツトは解決できると思います。
三つ目に、月での理想の一日の過ごし方に
ついてです。そもそも月でいう一日と地球の
中の一日は同じと考えるとよいのでし^{ょう}か。
私の考えでは、地球の一日とは地球が一周自
転し終わ^{った}日数なので、それに乗^{って}取ると

月の一日は地球という二十九・五日になると
思いました。そうすると、人工的に時間制を
導入してみるのがよいと思います。私の理
想の一日という点で考えると、私はスポー
ツをするところか好きなので、月でしか味わえ
ないスポーツの楽しさを広めるかもしれない
と考えました。月には地球と違い、深いクレ
イターがたくさんあります。そのような環境
を利用して、クレイターの内部をソリのよう
なもので滑る遊びを思いいつきました。そして、

遊んだらお腹が空きます。そのため、月で食
べれる食事、ビーガンカレーを紹介します。
トマト、豆などのような野菜であれば、月で
も栽培できる可能性があり、味も、味の感じ
方の約七十八パーセントが嗅覚と言われ
ている人間にとっては香りの強いカレーは美
味しいと感じる人が多いので、ほと考えまし
た。また、重力が六分の一の月では汁物か
ちがてしょうか、カレーにとろみを足せば解決
できると思われます。

四つ目に、月の土地問題についてです。月の裏側、つまり地球が見えない側は直接着陸や探査が少ないことから、ここでは月の表側の話をします。月面都市を作って人々が生活するようになれば、昔の地球の歴史のようになり、ここはもう前に、月は地球のように誰かの国や土地ではないからこそ、月面都市をどのようにつくって誰が使うのかをしっかりと話し合ってから決める必要があると思います。

そこで、私の意見について、月の資源や土地は誰のものでもなく、人類全体のものと決める法律が必要だと思います。また、争いが起きたときには話し合いで解決できる国際的なルールや軍事の禁止なども大切です。私は、そのようなルール、法律をつく月面共生法と名付けます。月に都市ができるなんて、昔は夢物語でしたが、もしかかもしれません。でも今は、本気でその未来を考えられる時代になってきました。地球

とは違う環境の中での運動、外の過酷な環境
に負けない快適な空間、そして、クレーター
で滑ったり、ビーガンがカレーを食べたりでき
るのびのびとした空間があるといいなと思い
ます。そして、月は誰かのものであるとする
のではなく、月は人類全体のものだと決める
。月面共生法があるとともに素敵になること
を思います。地球のように便利で、でも地球と
は違う楽しさがある。月面都市ができる、
そんな未来がやって来たら、私はクレーター
をソリで滑ってから、筋トレをして、カレー
を食べ、地球を眺めます。そして、今回、
月面都市のことを考えることで、学校で何か
学ぶことと違って自分で考えてそれを言葉に
することやできました。これから私は、自
分にできることを考えていきたいと思えます。